

令和6年度 事業計画・予算(案)

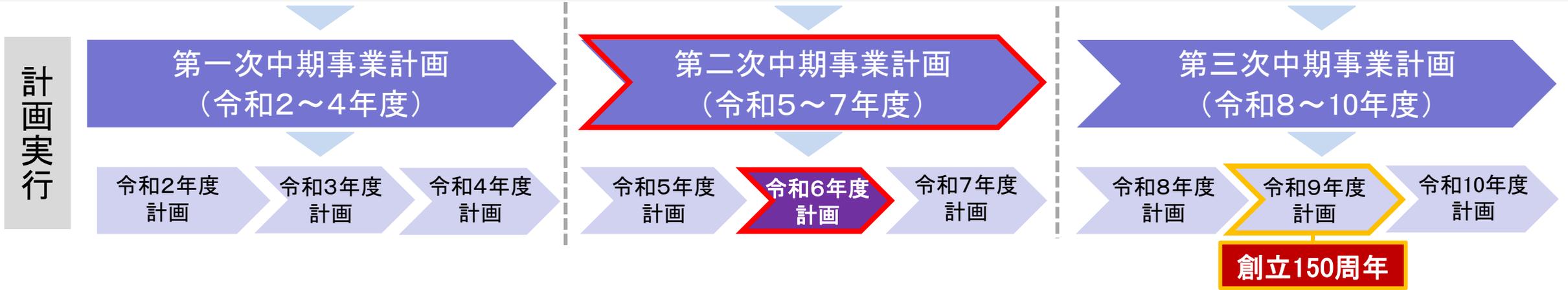
(全体概要)



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1. 日本赤十字社長期ビジョン・第二次中期事業計画

「日本赤十字社 長期ビジョン」



令和5年度の主な出来事



令和6年能登半島地震における避難所巡回診療



イスラエル・ガザ人道危機において負傷者の救援に向かうパレスチナ赤新月社のスタッフ



ウクライナ人道危機において診療に立ち会う日赤スタッフ(左)

第二次中期事業計画における事業横断的な重点テーマ

- ① 赤十字グループの総合力を発揮した大規模災害への対応
- ② 新型コロナウイルス感染症対応を踏まえた新興感染症への対応
- ③ 複合的な人道危機をもたらす気候変動に対する取り組みの強化
- ④ 人口構造の変化に対応した持続可能な事業(経営)基盤の強化

2. 令和6年度事業計画の主な取り組みテーマ

(1) 中期事業計画の横断的テーマに基づく主な取り組み

① 赤十字グループの総合力を発揮した大規模災害への対応



- 大規模地震対応計画の見直し及び新たな救護員育成体系に基づく救護員実践力の向上
- 能登半島地震対応における救護活動の検証
- 地域医療の継続に向けたBCP(事業継続計画)の強化

② これまでの新型コロナウイルス感染症対応を踏まえた新興感染症への対応



- 新興感染症対応マニュアルの実効性の向上
- 企業等の団体献血の在り方の再構築

③ 複合的な人道危機をもたらす気候変動に対する取り組みの強化



- 気候変動に対する全社的な取組方針に基づくアクションプランの策定
- 豪雨災害時の新たな被災者支援策の検討

④ 人口構造の変化に対応した持続可能な事業(経営)基盤の強化



- 会員組織の拡充並びにボランティアが参加しやすい体制の整備
- 社会課題に取り組む法人・団体との連携強化
- グループ経営を推進することによる赤十字病院の経営効率の向上
- DX(デジタルトランスフォーメーション)等を踏まえた血液次期基幹システムの開発設計

(2) 事業・部門別の主な取り組みテーマ

① 救護・社会活動等



- 行政・他機関と連携した地域貢献活動の推進
- ICT機器の導入等によるサービスの質及び生産性向上のための業務効率化の推進
- 国際的な優先的人道課題(イスラエル・ガザ人道危機、ウクライナ人道危機等)への対応

② 医療事業等



- 「第8次医療計画」「地域医療構想」等に基づいた各地域における医療提供体制の整備
- 患者サービス向上のための医療DX(デジタルトランスフォーメーション)の実施
- 感染管理領域の専門看護師及び認定看護師の育成

③ 血液事業



- 将来の献血基盤の確立に向けた各年齢層等への献血推進
- 輸血後副作用の減少を図る安全な輸血用血液の供給（細菌スクリーニングの導入準備）

④ コーポレート

- 日赤の活動内容への理解を図り、好意の促進に重点を置いた広報展開
- 全社的なリスク管理体制の整備
- 超少子高齢社会における安定的な事業運営に資する人材の確保
- 全社レベルで財政支援ができる体制の確立（資金の有効活用）

3. 令和6年度計画・予算概要

総額 1兆4,629億円
(歳出予算の合算)

(参考) 令和5年度予算額

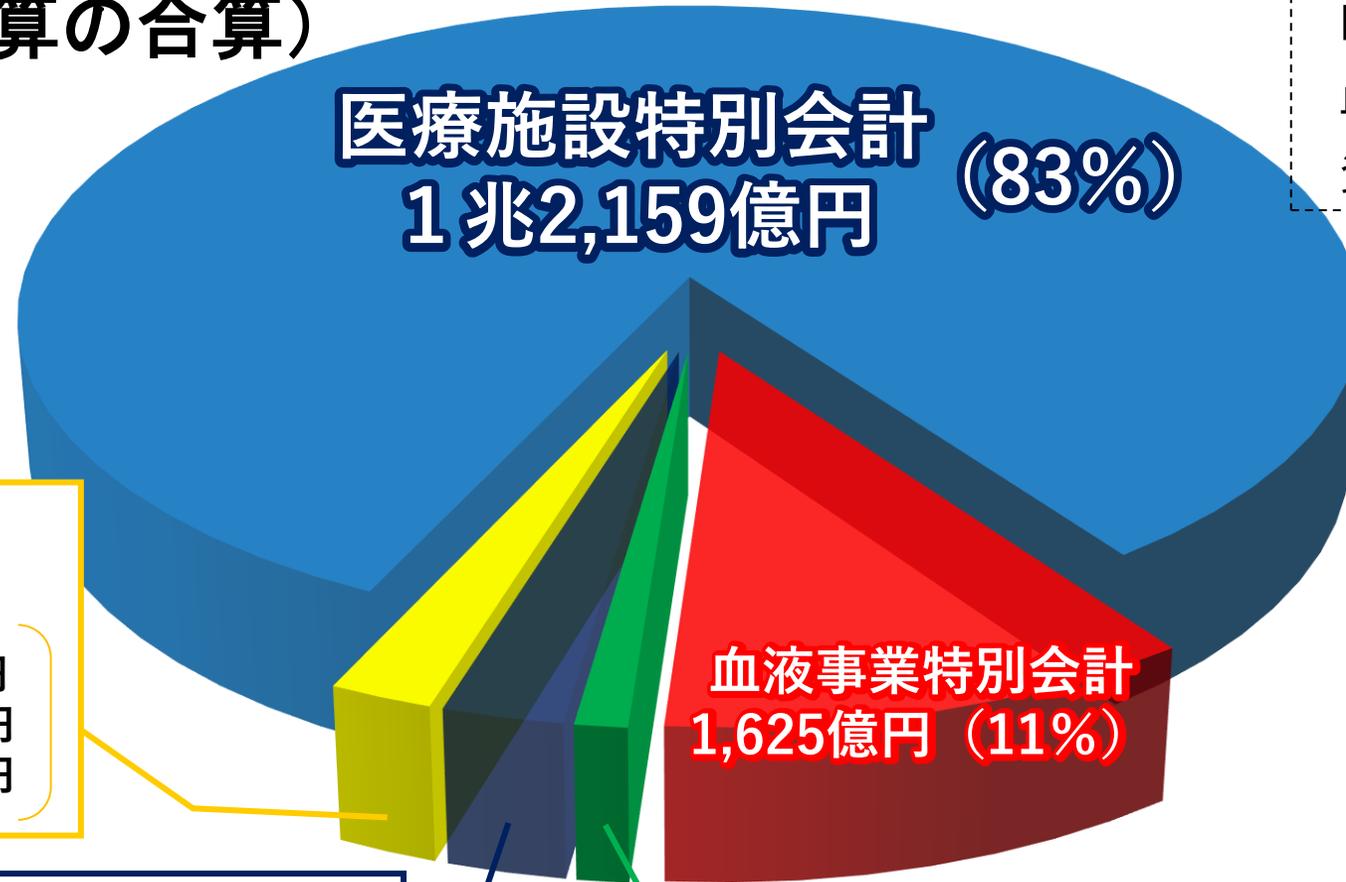
一般会計: 359億円

社会福祉施設特別会計: 159億円

医療施設特別会計: 1兆1,940億円

血液事業特別会計: 1,630億円

資金特別会計: 317億円



資金特別会計
315億円 (2%)

- 退職給与資金 309億円
- 退職年金資金 3億円
- 損害填補資金 1億円

一般会計
368億円 (3%)

血液事業特別会計
1,625億円 (11%)

社会福祉施設特別会計
160億円 (1%)

※ 端数処理の関係から総額と内訳額は一致しないこと。

4. 日本赤十字社創立150周年とその後に向けて

- 令和6年度以降は、第二次中期事業計画の実施と併せ、**その先の未来に向けた検討を本格的に開始する。**
- 職員と赤十字に関係する様々な人々が、普遍的な赤十字の理念のもと、社会課題に対応した赤十字を自らが作り上げていく意識を持つことが重要であり、その第一歩目として**大阪・関西万博への出展が位置づけられる。**

